

医学倫理審査委員会議事録

1. 日 時 平成25年11月21日(水) 16:30~17:00
2. 場 所 特殊診療棟2階 カンファレンス室
3. 出席者 委員長 白井副院長
委 員 伊熊療育指導科長・今井看護部長・新谷管理課長
外部委員 須田悦生(元静岡県立大学名誉教授)
本間恵美子(社会福祉法人ひくまの施設長)
(書 記) 庶務班長

4. 議事内容

すべての研究課題が、肺MAC症のものであるため、先に説明させていただき、その後、質疑にしたいと思います。

※研究課題25-51について

『肺MAC症患者における不安とQOLに関する検討(横断調査)』

- ・非結核性抗酸菌症の中でも、肺MAC症は、環境常在菌による肺感染症である。人から人への感染報告はないが、近年患者数が増加している。

外来での治療は可能であるが、COPDのような肺疾患の合併症が多く、治療をしても再燃再発が多く、40~50歳の中老年女性に多いとも言われている難治性の感染症である。

外来通院患者の中から、選択基準に合致し、研究に同意を得た患者に調査票を渡し記載をお願いするものです。

なお、アンケートはCOPD等の患者に実施しているものを使います。

※研究課題25-52について

『肺MAC症の感染源の解析のための研究』

- ・患者の喀痰中のMAC菌と、患者環境中から分離されたMAC菌をVNTR法を用いて遺伝子の型別を解析し、感染源を明らかにする研究です。

菌は土壌に多くいるとされており、感染源が判明すれば畑仕事をする時はマスクをする等の指導が可能になり、治療に寄与するものと考えています。

※研究課題25-52について

『肺MAC症の特徴-VNTRを用いた解析-I』

- ・外来で治療をしても、1人の患者で同一の菌である場合と菌が違う場合が見られる。菌の遺伝子を解析し、慢性的な感染か再感染なのかを明らかにし、臨床データと比較し病勢との関連を明らかにするための研究です。

「委員からの意見等」

- ・ 人から人へ感染しないのに、難治性の感染症なのですか？
→ はっきりと分かっていないという点、薬が効きにくいという点、日和見感染等で難治性になっている。
- ・ 40～50歳の人に多いとのことですが、家庭的にも大変ですね。
→ 治療法がはっきりしない点もありますが、患者さんのためにもQOLに関する検討をしたいと考えています。
- ・ 患者さんは、日常生活が可能なのですか？
→ 咳・痰が主症状で外来通院で治療出来ますし、進行状況はゆっくりとした病気です。
- ・ アンケートを実施する際に、アンケート用紙にはルビはふるのですか？
→ 補助者がついて説明をしながらアンケートを実施します。
- ・ この病気はワールドワイドですか？
→ 日本に多いと言われており、日本で増加傾向にある。
- ・ 環境からの菌と言われたが、どこから採取するのですか？
→ よくいると言われている土壌と風呂をメインに、最初はいくつかのポイントで採取し、絞っていく予定です。最初の方はしっかりと調査する必要があると考えています。
- ・ 風呂と土壌と言われたが、湿気に関係するのですか？
→ 常在菌であり、関係あると思われます。

* 上記研究 25-51・25-52・25-53 は当委員会として承認とする。